
ひれ伏せ！ 愚民どもっ！！

羽生 ユイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひれ伏せ！ 愚民どもっ！！

【Nコード】

N 6 2 3 3 Z

【作者名】

羽生 ユイ

【あらすじ】

「無礼者！ こちらの方を誰と心得る！ タケトリ皇国ミツキ・チトセ・ナヨタケ・サカキ・輝夜・月皇女様であらせられますぞ！ 頭が高い！ ひかえよっ！！」 タケトリ皇国の月皇女様が、士官学校にはいつて起こすどたばたコメディ。 ドSとは思えない側近のアキタと、ちよつと抜けてる愉快な仲間たちが、月皇女様のために頑張ったり、頑張られたり、いじられたり、虐げられたりして黒歴史を作ってくお話。

妾を誰と心得るっ！

第一章 妾を誰と心得る！

「無礼者！ こちらの方を誰と心得る！ タケトリ皇国ミツキ・チ
トセ・ナヨタケ・サカキ・輝夜・月皇女様であらせられますぞ！
頭が高い！ ひかえよっ！！」

妾に向かつて「お前ちっちゃいなー。ほんとに士官学校生？ 見
たことないんだけど。基礎学校生じゃないの？」と愚弄してきた男
たちに、アキタが牙を向いた。

妾のことになるとアキタは過保護じゃ。

確かに妾は、小さいと言われるのは嫌いじゃがの。入学したてな
のじゃし、あんまり目立ちたくないから大人しくしておこうと思っ
ていたのに、アキタのせいでペアじゃ。

第一、大抵の者は妾より背が高いから「頭が高い」とは、無茶ぶ
りもいいところなんじゃ。

なんせ妾は12歳にもなって、まだ140cmしかないのじゃか
らの。

成人の平均身長200cmの世の中で、この小ささはどういうこ
とじゃ。なぜ妾の身長はちつとも伸びんのじゃ。18歳の成人まで
の6年で、あと60センチ伸びるか不安になってくるのじゃ。この
2年、ちつとも伸びとる気がせんものじゃが！

こういう遺伝子設計になっておるのか見たいのに、成人するまで
解析するのは厳禁ときたものじゃ！

「す、すみません」

「申し訳ありませんっ！」

4人の男たちの内2人は、すぐさま謝罪し跪いた。かたかたと震えておる。

しかし、妾をからかった軽そうな男は「ええっ！　ちょっと聞いただけじゃん。お前だってそう思っただろ？」と、隣に立つばかりかい男に向かって相槌を求めておった。

ばかりかい男はアキタの発言に呆氣にとられて突っ立っておったようだが、ギロリとアキタの絶対零度の視線を向けられて、慌てて軽そうな男の腕を取り、「馬鹿。今のはお前が悪い」と諫めて、共に跪いた。

しかし、一番でかい男は跪いても妾よりでかつた……。でかい男と視線が合ったが、男のほうが若干視線が上だった。

さすがに妾がいかに小さいといっても、跪かせれば妾より大抵の者の視線は下になるんじゃないが、でかい男はでかすぎた。

でかい男も驚いたのだろう。まじまじと妾を見下ろして、ぽつりと呟いた。

「……確かに小さい」

ぶちんつ。

妾だって、わかっておる。妾は確かに小さい。だからって改めて言うことかの！？

「ひれ伏せ！　この愚民どもっ！！」

妾は、妾は、妾は――！

小さいけど、小さくない――！

そなたがでかすぎるのが問題なのじゃ――！

妾と下僕わらわ げぼくその1その2の出会いは、こんなふうにに最悪だった。
この後、在学中に妾わらわに向かつて「小さい」という単語が使われな
かったことや、妾わらわに話しかけるとき皆ひだまが跪ひざまずいておつたのを鑑かんみると、
やはり、このときのこやつらが無礼極まりないかわかるというもの
じゃ。

後に聞いたことじゃが、このときの妾わらわは相当な威圧プレッシャーを放ち、4人
だけでなく、同じ棟むねにいるもの全てがひれ伏しておつたという事実
無根の噂が流れておつたらしい。
まったく、大げさな。妾わらわの軽い叱責しっせきくらいで、そんなこと起こる
わけなかるうに。暇人どもが、でたらめを言いをつて。下々の噂しもじもと
いうのは尾ひれ背びれ胸びれつくから困ったものじゃ。

>>>ミツキ・チトセ・ナヨタケ・サカキ・輝夜カグヤ・月皇女ヒメ・月皇女伝記より
抜粋<<<

ミツキ・チトセ・ナヨタケ・サカキ・輝夜カグヤ・月皇女ヒメ、月皇国第一土
官学校に入学す。同日、無礼はたらを働いた者に罰を与える。何人なんびとたりも
頭を上げること適とがわらず。咎人とがひと、学生一同ひれ伏して許しを請こい、怒
りが静まるのを待つ。類たぐいまれな力の片鱗へんりんを臣民は垣間見かいまみ、ここに忠
誠を誓う。

>>>記録官アキタ：秋田・ミムロ・インベ・アキタ<<<

妾を誰と心得るっ！（後書き）

初投稿です。勢いだけで書いてしまいました

拙い作品ではございますが、評価ポイントやお気に入り登録、感想などを頂けるととっても嬉しいです。

今後も本作品を宜しく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6233z/>

ひれ伏せ！ 愚民どもっ！！

2011年12月20日21時55分発行